



申3号「中編成ワンマン運転の拡大について」に関する解明申し入れ 交渉開催!

1. 中編成ワンマン運転の拡大を行う目的をあきらかにすること

(組合)今施策の目的を明らかにすること。

(会社)生産年齢人口の減少やライフスタイル等の社会環境の急激な変化、技術革新の進展等に対応しながらお客さまが求める輸送サービスを提供していくため、中編成ワンマン運転の拡大を実施することとした。

(組合)今回、水戸—いわき間をワンマン運転拡大する根拠を明らかにすること。

(会社)全社的に線区を限定せず実施する考えである。今回、車両改造が順調に進み、概ね目途が立ったため、実施する判断をした。

2. 今後の運転士・車掌、駅社員の要員需給について、明らかにすること。

(組合)水戸支社の要員需給を示すこと。

(会社)コロナ以前は全社で1800名前後入社していた。今年度JR 東日本全体で700名、うち水戸支社は24名である。来年度は国鉄採用者の退職が終了する予定だ。新規採用者は500名である。生産年齢人口が減少する中、人材確保も難しい状況である。

(組合)駅から車掌業務を担う人数は何名か。

(会社)概ね40名程度である。

(組合)運転士の業務を担う人数は何名か。

(会社)今年度新規運転士要請は25名程度である。うち駅から直接運転士の業務を担うのは3~4名程度である。

(組合)10月11日に「ワンマン運転拡大と乗務員基地再編の現状と進捗状況」がタブレット端末に配信された。今後、水戸支社としてどのような展望をしているのか。

(会社)配信した趣旨は2018年当時に示したものの現状や変更点を周知した。当初の内容はコロナ前のため、取り巻く環境が異なる。今回改めて周知した。水戸支社として変更点はないと考える。

(組合)今回の提案に伴い削減する行路数の規模感はどれくらいなのか。

(会社)現在検討中である。示す段階になれば示していく考えである。

3. 一部常磐線を含む水戸線中編成ワンマン運転の成果と課題を明らかにすること。

(組合)水戸線ワンマン運転の成果と課題を明らかにすること。

(会社)機械化やシステム化が出来た結果、輸送サービスを支える業務を広く担う人材の育成が行えた。システム化に伴い、企画業務を担うことや臨機応変な対応が行っている。課題はないと考える。

(組合)水戸線ワンマン運転に伴い出面数の変化を示すこと。

(会社)行路数が減少したから異動するわけではない。業務の融合を図り、企画・立案業務を担う社員を育成し、適切に異動等を行う。

(組合)水戸線ワンマン運転により、ドアに纏わる事象の有無を示すこと。

(会社)岩瀬駅でドアが開扉しない事象があった。原因は調査中だが、関係箇所を改良した結果、半年以上同現象は発生していない。

(組合)水戸支社として今後のワンマン運転の考え方を示すこと。

(会社)線区を問わず、準備でき次第拡大する。システム化を進め、業務の融合や連携を図る。人ならではのサービスを行う考えである。企画業務を担うことで社員の成長、会社の成長につなげていきたい。